Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎（0263）52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

新型コロナワクチン　全国初の大学拠点接種を開始

いち早く職域接種を申請し21日に実施
本学歯科医師が接種者となり学生に接種

新型コロナウイルスワクチンの一般接種を巡り、大学や職場での接種を可能にするとの政府発表を受けて、本学はいち早く職域接種の申請を行った。21日（月）には接種を希望する歯学部・衛生学院・大学院の学生約450人に対してワクチン接種を実施。全国でも初の大学拠点接種とあって多くの報道機関が取材に訪れた。本学は医療系大学として、医療従事者優先接種で医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、臨床実習生（第5学年）らへの接種をすでに終えているが、今回の接種により学生や本学関係者全員が免疫を持つことができ、感染拡大防止により有効な態勢を整えた。

ワクチン接種を受ける歯学部学生の様子をテレビ局が取材

本学は政府が受付を開始した初日の8日（火）に職域接種の申請を行った。自治体に負担をかけず接種を加速させる目的で政府が導入した職域接種は、大学または企業が接種にあたる医療従事者と会場を確保し、2回の接種を完了させることなどが条件。本学はすでに松本および塩筑歯科医師会所属の歯科医療従事者約800人にワクチン接種を実施し、塩尻市の高齢者を対象にした個別接種も開始しており、ノウハウや必要な環境はすでに整っていることから申請が受理された。

文部科学省によると、17日（木）の時点で全国174大学が接種の申請を済ませたものの、付属病院を持たない大学は問診の医師や注射の接種者（打ち手）の確保に難航しているケースが多く、21日から接種を始められたのは本学ほか17校にとどまっている。

医師による問診後に接種の順番を待つ学生たち

接種開始に向けて18日（金）にワクチン保管用の冷凍庫が本学に貸与され、19日（土）には米モデルナ製ワクチン1000人分が搬入された。21日当日は本館北棟4階の多目的ホールを接種会場として、パネルで仕切った3つのブースを設置。医師3人が問診を担当し、接種は歯科麻酔科の歯科医師4人が交代で筋肉内注射を行った。検温や受付・誘導、薬液充填、接種後の状態観察などには教職員約20人が協力した。臨床実習生を除く第1から第6学年の歯学部学生と大学院生および衛生学院生合わせて約450人に対し、あらかじめ予診票を配布して密にならないよう学年別に細かく接種時間を設定し、スムーズに接種は進行した。

県内で初めての職域接種とあって多くの報道陣が取材に訪れ、前島信也病院長は「病院の医師が問診を行い歯科医師の先生方が接種者となるという、松本歯科大学の特性を活かした医科・歯科連携のワクチン接種態勢を新たに構築できた。学生への接種は、互いに信頼感を持って接し合えることができ、クラブ活動の再開など学生生活の正常化という点で有意義だと思う」と説明した。

また、接種後の感想についてインタビューを受けた歯学部第4学年の林 伸吾君は「感染したら周りに迷惑をかけると思っていたので、不安が和らぎました。気を緩めずに引き続き感染予防を続けたい」と応え、韓国からの留学生で第2学年の黄山夏（ファンサナ）さんは「入学してから一度も帰国できていないので、ワクチン接種が進み感染が減って帰省できるようになれば嬉しい」と願っていた。

翌22日（火）からは職員および家族、関連企業の従業員らの接種を行い、26日（土）までの6日間で総計978人のワクチン接種が完了した。

一方、県内の多くの企業・団体から本学での職域接種の依頼が相次いでいる。本学に相談に訪れた交通インフラ関係の企業担当者は「不特定多数の人と接する場面が多く在宅勤務も難しい業務内容のため、早く従業員に接種したい。契約している産業医は開業医で地域全体の接種の担い手でもあるため、会社に常駐してもらえる医療従事者を確保するのは難しく、松本歯科大学に協力していただければ非常にありがたい」と、職域接種の実現に期待を寄せた。

多くの学生が報道陣の質問に応じた

文部科学省からは、長野県における海外留学予定者に対するワクチン接種の依頼の他、大学をワクチン接種推進の重要拠点とし近隣住民を対象にした接種も要請されており、宇田川信之歯学部長は「今後も可能な限り職域接種に協力し、地域の感染拡大の抑え込みに貢献していきたい」と方針を語っている。

ワクチン接種者養成のため
筋肉内注射の実地研修を開催
本学歯科医師37人が参加

職域接種の実施に先立つ5月28日（金）、図書会館学生ホールにて本学の歯科医師を対象に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種のための筋肉内注射に関する実地研修を行った。

ワクチン接種は「医業」の範疇に含まれるため、医師または医師の指示のもとに看護師等が行う必要があり、現行法上の解釈では歯科医師が行うことはできない。しかしながら歯科医師は、筋肉内注射に関する基本的な卒前教育を受けており、口腔外科や歯科麻酔の領域では患者に対して筋肉内注射を行うことがあることを踏まえれば、筋肉内注射行為そのものは、歯科医師でも一定の安全性をもって実施することが可能であると考えられる。

政府は今後本格化してくる接種に向けての人員確保が必要と判断し、厚生労働省から「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種のための筋肉内注射の歯科医師による実施について」の事務連絡が4月26日（月）付で発出され、法的な整理が示された。以下の3つの条件（①歯科医師の協力なしにはワクチン接種が実施できない、②歯科医師に筋肉内注射の経験があるか必要な研修を受けている、③非接種者の同意が得られている）を満たす場合には、集団接種会場に限り、医師の監督下で歯科医師によるワクチン接種のための筋肉内注射が可能とし、その後厚生労働省は職域接種における歯科医師の接種を認めた。

これを受けて本学においてもワクチン接種のための筋肉内注射ができる歯科医師を養成するための研修を行い、37人の歯科医師が参加した。

まず前島病院長から安全な筋肉内注射を行う上での注意点（三角筋への筋肉注射の深度と部位など）に関する講演をしていただいた後、看護師さんたちにもご協力いただき、生理食塩液を用いて参加者たちが相互に筋肉内注射を行った。

医療従事者向けのワクチン接種に並行して近隣の高齢者に対する接種も開始されており、大学における職域接種も期待されている。さらなるワクチン接種の加速に我々歯科医師が貢献できれば幸いである。

（歯科麻酔科　教授　澁谷 徹）

相互に筋肉内注射を行う本学歯科医師

立ち上がれ！今こそ底力を見せるとき

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島　勲

『プレジデント』6月18日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、「日本人の底力」を引きだしてコロナ禍の危機管理に対処する記事を要約して紹介します。

私の最新刊『日本人の底力』が5月21日に発売された。近年の私の活動を振り返りながら、特にコロナ禍における危機管理を論じている。タイトルの『日本人の底力』には、この時代を生き抜くには、政府に頼るだけではなく、日本人一人ひとりの底力を引き出すことが大切だという思いを込めた。

残念ながら最近の菅内閣は褒めるところが少ない。菅義偉首相の政策の三本柱といえば、「デジタル社会」「カーボンニュートラル」「地方創生」だが、新型コロナ感染症をめぐっては、接触確認アプリCOCOAの不具合に気づかず、4カ月も機能していない状態でAndroid版のアプリが配信されていたり、ワクチン接種予約でも混乱が相次ぐなど「デジタル」は日本政府の大きな弱点であることが露呈してしまった。

IT業界では新しいシステムをつくる際には、トライ&エラーを繰り返すのが常識だそうだが、いつも100点満点を求められる霞が関の官僚にはトライ&エラーは馴染まない文化なのだろう。さらに霞が関には子どものころから100点ばかりの優等生が揃っている。ミスすることに慣れていないだけでなく、非常に優秀な彼らは、デジタル技術に頼らなくても紙とハンコのアナログで多くのことを解決してきた。日本の行政のデジタル化が遅れたのはこうした背景もあると思う。国民もメディアも「日本の政府なら完璧にできて当然」と思うから、問題が起きると叩きまくるのだ。

コロナ禍の今は非常時である。誰も経験したことがない危機に対処しているのだから、最初から完璧にこなすことなど無理なのだ。開き直ってトライ&エラーの精神で頑張ってほしい。重要なのはエラーの後にもう一度トライすることである。

小泉純一郎元首相は演説で「ピンチはチャンス」のフレーズをよく使っていたが、コロナ禍というこの大ピンチでデジタル化が推進できれば、まさに「ピンチはチャンス」といえるのではないか。

デジタル世界では、すべての情報が0と1の2つの数字に置き換えて処理される。だから、白黒はっきりさせるのがいいかと思っていたのだが、デジタル化の推進にいちばん必要なのは柔軟な考え方だと気がついた。コンピューターは間違いを犯さないが、ルールに沿ってしか動いてくれない。コンピューターの動くルールを設定する人間に柔軟な発想がなければ、かならずバグや、定義しきれていない抜け道が生まれてしまう。

そこで思い出すのが、私のふるさと長野県伊那市である。日本中どこにでもある過疎化が進んだ中山間地域の地方都市なのだが、先進的なスマートシティというもう一つの顔を持っている。高齢化と人手不足に悩む農林水産業にITを導入したり、高齢者の買い物や通院のための交通機関にAIを活用したり。ドローン宅配もいち早く実用化されている。コロナの流行以前から行政手続きはデジタル化され、小中学校ではリモート授業が行われていた。地方の高齢者にはITとの接点は少ないと思われがちだが、テレビのリモコンで操作できるシステムの導入などで壁を乗り越えた。

中山間地域の地方都市でこれだけの取り組みができたのは、政府のITに関わるあらゆる助成金やモデル事業に応募しまくって、獲得した予算をつなぎ合わせた結果だという。柔軟な考え方が伊那市をスマートシティに変えたといえる。伊那市の取り組みは拙著『日本人の底力』にも書いたので、興味のある方はぜひ読んでほしい。

コロナ対策は都道府県レベルが中心になって実施されるものが多いが、首長からは「政府の支援がないからできない」「政府が決めてくれないからできない」という声が聞こえてくる。たしかに、全国一律で進めなければならないものもあるが、既存の制度もアイデア次第で使えるものもあるだろう。危機管理は柔軟性が勝負である。

以前、偏差値70以上の東大、早慶から偏差値50前後の新設校まで、さまざまな大学の学生10人を集めて簡単なテストをしたことがある。「2分間で、『田』のように『日』という漢字に1画追加して別の漢字を7つ以上つくる」という課題を出した。落ち着いて考えると「白、由、目、旧、甲、旦」など浮かんでくるが、7つ書けた学生は一人もいなかった。大学の偏差値に関係なく、全員が3～5つという結果だった。突発的な問題への対応では、学歴は大して役に立たない。周囲を360度見渡して、あらゆる可能性を探る能力が必要である。今こそ『日本人の底力』を引き出して未曾有の危機を乗り越えようではないか。

第２回 FD 研修会
歯学系ＣＢＴ問題作成について学ぶ

具体的な注意点について須田教授が解説

5月26日（水）に本学601教室において、本年度第2回FD研修会「歯学系CBT問題作成について」が、共用試験実施評価機構・歯学系CBT講習会タスクフォースである明海大学教授・須田直人先生を講師としてお招きし、開催された。

例年、本FD研修会はワークショップ形式で開催されてきたが、コロナ禍の影響で、昨年度は中止となり、本年度は講演会形式での開催となった。

講演では、まずCBT問題作成についての全体的な説明と、A・L・W・Q各問題形式ごとの注意事項について説明があった。続いて、過去に本学から提出された問題のうち、残念ながら不採択となった問題を例に、具体的な注意点について分かりやすく解説していただいた。最後には、講演内容に関する活発な質疑・討論が行われた。本研修会は、今回初めて作問に関わる先生方の勉強になっただけでなく、ベテランの先生方にとっても改めて作問の注意事項が確認できた良い機会になったと思われる。

現在、本学ではCBT公募問題の作問を各講座に依頼し、作問が進行している段階である。本講演を参考に、優れた問題が提出されることを期待したい。また、来年度は、コロナ禍が去り、再びワークショップ形式での研修会が開催できることを望みたい。

お忙しい中、本FD研修会に参加された先生方、ならびに作問にご協力頂いている多くの先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

（CBT小委員会委員長／解剖学講座　教授　平賀　徹）

第６学年・宮川義基君
事故現場で適切処置し当事者から感謝の言葉

5月24日（月）午後7時頃、国道19号の桔梗ヶ原交差点で乗用車同士が衝突する交通事故が発生。第6学年の宮川義基君が警察に連絡し救急車を呼ぶなどしてその場で適切な措置を行い、事故当事者の家族から本学学事室に「松本歯科大の学生・宮川さんに毛布をかけていただくなど親切に介抱していただきました。お礼の言葉を伝えてください」との感謝の言葉が寄せられた。

事故現場の近くに住む宮川君が衝突音を聞いて現場に出てみると、事故を起こした当事者たちが呆然としていたため、すぐに警察に連絡し、交差点の真ん中で立ち尽くしていた高齢の男性を道路わきの安全な場所に移動させた。男性からは「寒い」との訴えがあったため、宮川君は家に戻って毛布を持参し低体温症にならないように保温を実施した。また、衝突した別の60代男性の車に同乗していた女性は手首が腫れていたので、宮川君は救急車を呼び、警察官や救急隊が到着するまで、事故現場の安全確保に努めた。60代男性は歯科治療のため本学病院に通われたことのある患者さんで、本学学生の手助けに感謝していた。

人助けをした宮川君

宮川君は「事故現場で呆然としている当事者の方々を見て、なにかお手伝いをしなければという思いで行動しました。幸い大事に至らずに良かったと思います」と話している。

歯科医師は変わった！

大学誌編集主幹
特任教授
笠原　浩

近年最多の40名の対象者を迎えて4月から開始された臨床研修は、無事に2カ月間の初期技術研修を完了した。亀山敦史研修管理委員長（本学副歯科病院長）らが練り上げたプログラムはきわめて充実した内容で、スポーツ歯科や審美歯科といった最先端の分野までも含めた診療技術の講義と実習が、小グループごとに、本学病院各科の教授とスタッフによってみっちりと教育された。

筆者は「最先端」となると全くおぼつかない老兵ではあるが、臨床経験60年の昔話ということで、少しお手伝いをさせていただいた。

ところで、半世紀を経過する間に、歯科医療に対する国民の見方に革命的な変化が起こったことにお気付きだろうか。

かつては「歯科治療は痛い、歯医者は怖い」ものであり、患者さんは痛くて我慢ができなくなるまでは受診せず、痛みが止まればそれっきり来なくなるようなことも多かった。

東京都心の病院で働いていた筆者が「リコールと予防処置の徹底による歯科的管理を10年間実践した結果、受診してきた小児患者の半数が要処置歯ゼロになった」と学会報告したら「むし歯のない子どもが歯医者に来るはずがない」と笑い飛ばされた時代だったのだ。

けれども、リコールシステムを軸とした歯科的健康管理の考え方は、小児歯科から歯周病科、さらには障がい者歯科や高齢者歯科などの分野にも着実に広がり、定着していった。

筆者の患者さんの中には、40年前に本学病院小児歯科で赤ちゃんの時から診てきた患者さんが、今やご自分のお子さんとともども定期的に来院されているし、長年月のお付き合いで、すっかりお年を召されて「先生、私より先に死ななんで…」と、医者冥利に尽きるようなことを言ってくださる方もいる。

筆者ばかりでなく、小児歯科を教えたOBの先生方も、患者さんと一緒に齢を重ねつつ長年月を過ごされている方が多い。

国民の意識も大きく変わったようだ。以前は「どこも治療するところはありません」と言うと、無駄足をしたという顔をする人がいたものだが、現代では「定期検査は合格です。これからもきれいに磨いてください」と申し上げると一緒に喜んでくださる。

多くの人が、「とくに気になるところはないですが…」と、歯科クリニックを訪れる時代が来るとは、「歯医者は怖い」という半世紀前の常識ではとても考えられなかったことに違いない。

歯科に限ったことではないが、QOLの維持向上のためには定期的な健康チェックとそれぞれの状況に応じた保健指導に大きな価値があることが認められようになったのだ。

「8020運動」もこうした流れに拍車をかけたようだ。国民の大半が「歯の健康は老後のQOLを支える大事な柱」であり、それを守るために「定期的な歯科受診」が必要であることを認識し始めている。「歯科医師過剰」どころか「歯科医師不足」の時代が近付いていると思われる。

創立者の「視点」

理事会報告

2020年度事業報告、決算等を承認

学校法人松本歯科大学の第198回理事会および第140・141回評議員会が5月27日（木）、本部館3階会議室で開催され、2020年度事業報告ほか各議案を審議、いずれも満場一致で承認可決された。前回に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、県外の理事などとオンラインによるWeb会議で行われた。

挨拶をする矢ヶ﨑理事長（左）

【会議事項】

1. 2020（令和2）年度事業報告について
2. 2020（令和2）年度決算について
3. 寄附金品の受納について
4. 学校法人松本歯科大学諸規程の一部改正等について
5. その他

【2020年度事業報告概要】

〈Ⅰ. 教育・研究〉

1. 歯学部

①歯学部教育の質の保証と向上

・進級判定、卒業判定ともに判定基準を明確にし、客観性のある厳格な成績判定を実施した。

・授業評価アンケートを2回実施し、授業に対する学生の理解度や満足度等を調査した。結果は学内会議で報告し、職員・学生イントラネットで公表し、科目担当者には改善計画書の提出を求めた。

・学生生活満足度調査を年1回実施し、学生生活の実態を把握することに努め、大学環境の改善等に向けた基礎資料とした。

・研究入門プログラムとして、第2学年に「歯科医学研究A」、第3学年に「歯科医学研究B」を開設し、未来の歯科医療を拓くリサーチマインドの養成を行った。

・各学年に学年主任と補佐を4～6人程配置し、学生の修学状況の把握や、学修および学生生活の相談に応じ、学生をサポートした。

・自発的学習を促す自己研鑽可能な教育システムとして、学生イントラネットに授業資料やウィークリーテストの問題・正答を掲載したほか、第4～6学年生に対しては、スマートフォン端末を用いた学習システムを運用した。

・学生の自主学修体制の支援として、第6学年生の卒業準備委員会のほか、第4・5学年生の学年委員会の設置を認め、感染予防を徹底したうえで専用の自習室を貸し出す等学生の自主的な学修活動を支援した。

・FD研修会を2回開催し、教員の教育力の強化に努めた。

・新型コロナウイルスの影響で、始業時期を1か月遅らせ、5月よりオンライン授業を実施した。

・オンライン授業に係る撮影器具および消耗品を購入し、カリキュラムどおりの授業運営を行った。

②退学者、除籍者の低減

・退学者の減少、友人づくりの支援を目的とした初年次教育として、例年4日間程度実施している新入生オリエンテーションは、新型コロナウイルスの影響で2日間の実施となった。

・学生相談室に非常勤カウンセラーを配置し、月2～3回、1回あたり2時間のカウンセリングを実施した。毎回1～3人の相談者が訪れ、さまざまな心理的問題に対応した。

・学業成績が良好で経済的理由により修学が困難な学生に対し、日本学生支援機構の奨学金や大学独自の奨学金制度により、経済的支援を行った。

③標準修業年限内での卒業率の向上

・初年次教育では双方向的、協働的な授業（「入門歯科医学」等）を通じ、能動的で自律（自立）的な学修への転換を目指した。

・学生・保護者に対し面談を実施し、学生生活や学習方法に関する助言を行った。

④第114回歯科医師国家試験の現役学生（新卒）の合格者は62人、合格率95・4％を達成した。

2. 大学院歯学独立研究科・総合歯科医学研究所

①大学院の入学定員充足率向上

・大学院学生募集要項と願書等の出願書類については、PDF版を大学ホームページに掲載。志願者が必要な書類をダウンロード可能とし、資料請求の効率化を図った。

・歯学部第6学年生と臨床研修歯科医に対し、6月に大学院説明会を実施した。

・一般選抜のほか、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、秋期選抜試験を実施した。

・入学者は2020年度秋期選抜が5人（留学生3人）、2021年度春期入学が11人（留学生1人）であった。

②大学院教育の実質化

・授業に出席できない遠方に住む社会人学生に対応するため、授業を収録した映像をWeb配信により視聴できるようにし、メール等で個別指導を行い大学院教育の実質化を図った。

・第1学年導入科目の医療・科学倫理学概論では、3コマ「English for science & research」「Reading a scientific article」の英語講義を設定し、英語論文活用や英語による発表のためのスキル養成に努めた。

・国内外の研究者を招き大学院セミナーを3回開催し、大学院生の能力向上と教員の研究活動の活性化を図った。

・学位論文の審査は、客観的で公平性のある審査を実施し、厳格な判定を行った。

③標準修業年限での学位授与の促進

・大学院生の指導は、複数教員指導体制とし、主指導教員は学位論文の作成着手から完成に至るまでの研究指導の主要な任務を果たした。

④大学教員、研究者の養成

・ティーチング・アシスタントとして大学院学生1人を採用し、教育・指導者となるためのトレーニングの機会を提供し、経済的な支援も行った。

・リサーチアシスタントについて、4人を採用した。

⑤世界水準の研究活動の推進

・国際学会誌に研究成果を積極的に投稿し、Nature Communication に2報、Nature Metabolism と EMBO Journal に各1報掲載された。

⑥学位授与状況

・早期修了学位取得者1人、標準修業年限での学位取得者10人、論文提出による学位取得者2人

3. 松本歯科大学衛生学院

①入学定員の充足

・大学、短大、専門学校への進学者が多い高校を指定校に選定し、入学実績の多い高校は推薦人数を増やした。

・一日体験入学を7月と9月に開催し約40人の参加者があった。また、参加できなかった者には個別の学校見学で対応した。

②歯科衛生士国家試験には卒業生35人が受験し、34人が合格した。合格率は97・1％だった。

③社会のニーズを踏まえた実践的な歯科衛生士の育成

・演習時のグループワークや実習での班行動を通じ協調性を培った。

・第1学年より医療従事者の心構えなどを学び、戴帽式、登院前オリエンテーションにおいて、医療人としての自覚、責任を認識させた。

〈Ⅱ. 病院・診療〉

1. 病院

(1)歯科部門

①初診室担当歯科医師数の増強とスキルの向上を図り、待合室の集中を回避できた。

②いびき外来および息フレッシュ外来を設置し、最新検査機器を使い専門医による診療体制を整備した。

③手術室における必要な器具準備の効率化を図った。

④器具・器材へのバリアフィルム貼付の徹底やグローブの適正使用を実施した。

(2)医科部門

①医科外来において、院外処方箋発行率は9割を超え、希少薬剤や不良在庫となる薬剤の院内在庫削減につながった。

②4月に「松本歯科大学二條皮ふ科クリニック」を開設し、多くの受診者により、皮ふ科の診療実績の改善につながった。

(3)共通部門

①新型コロナウイルス感染拡大状況でCT検査件数は減少したが、MRI検査数は昨年と同数を維持した。

②診療科長会にて月次の医療収益と過去5年間の比較を共有することにより、収益改善の取り組みを徹底した。

③病棟稼働率において、10月49・9％、3月53・6％と高い稼働率を達成した。

2. 診療

・病院全体の患者数は前年度比3・7％減、診療実績は前年度比1・7％減となった。

〈Ⅲ. 管理・運営〉

(1)施設・設備の維持管理

・施設・設備の維持について安全面に配慮して必要不可欠なものから工事および修繕を行った。

・CAMPUS INN 新入生棟などLED更新工事を行った。

(2)図書館

・入退館認証管理システムの入替を実施した。

(3)組織・人事

・9月に京都府立大学の塚本康浩先生を招き、SDを実施した。

(4)経常的経費の見直し

・提出された予算は、重要性・緊急性を聴取し必要性のあるものについて、予算執行できた。

(5)学生募集・広報活動

・ホームページにWebオープンキャンパスを掲載し、オンライン個別相談を実施した。

令和2年度資金収支計算書および令和3年度予算書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）　（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

（単位　円）

収入の部		
科目	令和2年度決算	令和3年度予算
学生生徒等納付金収入	2,347,722,888	2,401,850,000
手数料収入	14,855,400	18,700,000
寄付金収入	158,990,000	16,000,000
補助金収入	249,868,200	250,200,000
資産売却収入	2,623,501,210	7,300,000
付随事業・収益事業収入	1,663,929,671	1,786,000,000
受取利息・配当金収入	38,641,596	60,000,000
雑収入	53,856,990	137,000,000
借入金等収入	0	0
前受金収入	319,265,478	334,746,000
その他の収入	1,302,737,814	1,400,240,000
資金収入調整勘定	△ 612,344,967	△ 646,600,000
前年度繰越支払資金	679,137,427	466,000,000
収入の部合計	8,840,161,707	6,231,436,000

支出の部		
科目	令和2年度決算	令和3年度予算
人件費支出	2,297,851,555	2,185,000,000
教育研究経費支出	1,413,549,032	1,542,000,000
管理経費支出	592,372,458	734,440,000
借入金等利息支出	0	0
借入金等返済支出	0	0
施設関係支出	111,705,729	131,700,000
設備関係支出	90,828,763	120,930,000
資産運用支出	2,561,895,684	0
その他の支出	1,460,597,346	1,343,310,000
〔予備費〕	0	0
資金支出調整勘定	△ 291,599,478	△ 442,900,000
翌年度繰越支払資金	602,960,618	616,956,000
支出の部合計	8,840,161,707	6,231,436,000

貸借対照表

令和3年3月31日

（単位　円）

資産の部		
科目	本年度末	前年度末
固定資産	16,793,955,258	17,468,877,415
有形固定資産	13,120,261,027	13,995,820,006
土地	3,936,073,628	3,936,073,628
建物	7,443,926,729	7,922,731,686
その他の有形固定資産	1,740,260,670	2,137,014,692
特定資産	105,666,808	105,665,718
その他の固定資産	3,568,027,423	3,367,391,691
有価証券	3,389,145,200	3,177,671,865
長期貸付金他	178,882,223	189,719,826
流動資産	951,312,758	1,078,146,447
現金預金	602,960,618	679,137,427
その他の流動資産	348,352,140	399,009,020
資産の部合計	17,745,268,016	18,547,023,862

負債の部		
科目	本年度末	前年度末
固定負債	964,089,411	971,066,537
流動負債	840,135,295	1,043,278,668
負債の部合計	1,804,224,706	2,014,345,205

純資産の部		
科目	本年度末	前年度末
基本金	40,770,004,191	40,864,683,664
繰越収支差額	△ 24,828,960,881	△ 24,332,005,007
純資産の部合計	15,941,043,310	16,532,678,657
負債及び純資産の部合計	17,745,268,016	18,547,023,862

衛生学院 学費改定！

社会に貢献できる 歯科衛生士を数多く養成

歯科衛生士は、働く場所が多いことから、地域を問わず安定した求人があるのが特徴で、例年、松本歯科大学衛生学院には県内はもとより全国から歯科衛生士の求人が寄せられていて、２０２０年度の求人倍率は１７・９倍だった。このように歯科衛生士の需要は伸びているが、供給が追い付かないのが実情である。

そこで本学衛生学院衛生士学科は２０２２年度より、募集人員を38名から50名に増やす予定で、また入学しやすい学費設定にすることで、社会に貢献できる歯科衛生士を数多く養成していく。これまでの入学金12万円を１万円に減額、諸納付金を廃止し、さらに授業料66万円を15万円に大幅減額する。これにより、３年間の学びの費用（入学金＋授業料）は、総額46万円となる。

５月29日（土）には衛生学院の一日体験入学が開催された。コロナウイルス感染症対策により内容、時間を縮小し参加者数を制限して行われ、８組16人が参加した。

衛生学院学生募集のチラシ

あいさつに立った笠原悦男衛生学院長は「歯・口腔の健康は全身疾患の健康に大きく関与しており、人々の健康長寿のためには歯科衛生士の役割が重要視されています。歯科衛生士は将来性のある職業です」と歯科衛生士の仕事の魅力とやりがいについて説明し、「松本歯科大学衛生学院は環境・設備が充実し、附属病院で臨床実習に臨めます。学費も改定しましたので、自分の職業選択としてぜひ入学を考えてください」と呼びかけた。続いて島田陽子教務主任が模擬授業を行い、カリキュラムについて説明した。

次回の一日体験入学は７月17日（土）に開催される。

日本口臭学会第12回学術大会Web開催

歯科保存学講座・亀山敦史教授がセミナーで本学「息フレッシュ外来」の取り組みなどを紹介

口臭は嗅覚の特殊性から、その異常を自分自身で感じ取ることが難しい。口臭が主訴であっても、必ずしも口腔内から不快な臭気を放っているとも限らず、実際の口臭の有無や程度に関係なく、ただ不安感や悩みだけが大きくなってしまい、その対応に苦慮するケースもある。松本歯科大学病院では２０２０年４月から息フレッシュ外来が開設され、外来主任である歯科保存学講座・亀山敦史教授のもと筆者も微力ながら外来運営に携わっているが、当外来でも対応に苦慮するケースは多く、試行錯誤の日々である。

６月５日（土）から20日（日）にかけてWeb開催された日本口臭学会第12回学術大会において、亀山教授はセミナーで「さわやかな息で明るい毎日を過ごすために」と題して講演し、当院での外来の取り組みとともに、第一三共ヘルスケアから発売されている「ブレスラボ」を用いた口臭患者へのアプローチ法について解説した。

Webで講演した亀山教授

口臭患者への口腔内アプローチは、口腔清掃やう蝕・歯周病治療などのほかに漢方などの投薬、またそれらに併用して洗口剤を推奨することがある。

「ブレスラボ」は現在テレビCMでも放送されているように、殺菌成分であるCPC配合で、抗炎症成分による歯肉炎の予防、また液体なので口腔内全体に瞬時にいきわたり気軽に使用できるという特徴を持つが、もう1つ大きな特徴は、吸着剤としてグルコン酸銅が配合されており、口臭の主なにおいの原因である揮発性硫黄化合物と銅イオンが強固に吸着し、非揮発化する結果、口臭を消してくれるというものである。

これ1つで解決するわけではないが、多角的なアプローチ法を試行錯誤しながら、さわやかな息で明るい毎日を患者さんに過ごしていただけるよう願うばかりである。

（初診室（総合診断科・総合診療科）講師　大木絵美）

秋の収穫を楽しみに サツマイモの苗の植え付けを体験

本紙2月号で紹介した衛生学院生による仕事体験（清掃・レストラン等の手伝い）に続き、今回も歯科衛生士学科の1年生から3年生の希望者19人に、サツマイモの苗の植え付けを体験してもらいました。

歯学部2年生1人と研修歯科医の4人の先生方も加わり、松本歯科大学が管理する広さ約1５００㎡の畑で「サツマイモ植え」に挑戦です。

６月５日（土）、前日の雨も上がり、まずまずの畑仕事日和となりました。今回は、「紅はるか」「紅あずま」「なると金時」各５００本の苗植え作業です。マルチ張り機によってシートが張られた15本の畝へ、作業を分担して苗を植えていきます。仕事内容に慣れると全員が丁寧な手作業ながらスピードも増し、予定時間をオーバーすることなく植え付けは終了しました。皆笑顔で汗を拭い、労をねぎらって和やかな雰囲気の中、達成感を感じてくれました。

サツマイモの苗を植える衛生学院生

10月終わり頃に収穫される予定で、自分たちが手をかけたサツマイモの成長を楽しみに、美味しく食べられる日を待ちます。本館北棟売店で販売するほか、学生食堂、フレンチレストラン、中国料理レストランでも、皆様にも味わっていただけると思います。

（日本スコラ株式会社　神谷健太郎）

第1学年「環境学・国際文化学」を新たに開講

信州大学名誉教授・小野珠乙先生が動物の歴史と遺伝的改良について講義

「本年度から新たに開講した第1学年「環境学・国際文化学」は、世界的視野を涵養するための教養科目で、動物の社会的役割、英会話能力、地球環境、国際文化などを理解する。その中で、世界各地における動物の利用の歴史と遺伝的改良についての講義は、信州大学農学部特任教授（同大学名誉教授）の小野珠乙（たまお）先生が担当する。小野先生にその要旨について以下に解説していただいた。

私たちホモサピエンスのご先祖は、世界各地で野生動物を飼い、繁殖を制御してさらに遺伝的に改良を加えて目的にかなった外貌、能力、気質をもった家畜品種を作出してきました。例えば、霜降り肉で有名な黒毛和種は日本の労役用の在来牛と欧州や英国の乳用牛を交配した牛がルーツです。役用牛に乳用牛を交雑しているため、筋肉の繊維が粗いのでサシと呼ばれる脂肪が大理石模様（霜降り）のように入ります。さらに現在の繁殖用黒毛和種メスの99・9％は１９３９年生まれの「田尻号」という一頭のオスの但馬牛の子孫です。

米国には元来猪はいなかったので、米国の猪（wild boar）は明らかに野生化した豚です。豚は野生化すると猪の風貌になります。しかし、日本の野生の猪は有史以前からの猪か、野生化した豚か、あるいは両者の交配によるものかは諸説あるところです。COVID-19の蔓延はワクチン接種により鎮火が期待されていますが、日本の豚は伝染病のCSF（豚熱）鎮火のため、ワクチンを接種したので「清浄国」の認定を国際機関から取り消されました。清浄国に戻るには、豚熱が一定期間発生していないことやワクチンを接種していないことなどが要件となっています。

講義する小野先生

ウールは羊毛ですがカシミヤは山羊毛です。馬は臼歯の前方に隙間（歯槽間縁）があり、そこにハミ（くつわ）を装着することにより思いのままに制御することができます。他の家畜にはない特色です。シマウマにも歯槽間縁は有りますが家畜失格の理由は多々有り、利用されていません。

世界各地における動物の利用の歴史、遺伝的改良そして動物の社会的役割や私たちとの関わりを理解することにより、幅広い視野に立脚した豊かな人間性と教養の修得を期待します。

（環境学・国際文化学」非常勤講師　小野珠乙）

人事異動

〔昇任〕
6月15日付
保科　芳子（法人（総務）課長補佐）

〔配置換〕
6月15日付
松崎絵里子（法人（秘書課）課長補佐（書記））
宮田久美子（法人（秘書課）チーフ）
奥原　晃（法人（秘書課）事務員（出向受入職員））
酒井　康成（法人（対外交流関係室）副主幹兼務）

〔採用〕
6月1日付
呉　佳瑩（診療助手（病院保存科））
王　宜文（診療助手（病院補綴科））
6月7日付
村上　梢（病棟看護師等看護師（契約職員））
〔組織変更〕
6月15日付
法人（企画調査室）における秘書業務は、法人（秘書課）に業務管理体制を移行
法人（企画調査室）における対外交流関係業務は、法人（対外交流関係室）に業務管理体制を移行

7月行事予定

6日(火)　Ⅱ期試験（第6学年）
11日(日)　一日体験入学（歯学部）
17日(土)　一日体験入学（歯学部）
18日(日)　一日体験入学（衛生学院）
24日(土)　留学生選抜(A)編入学選抜(A)
27日(火)　留学生選抜(A)編入学選抜(A)合格者発表
28日(水)　大学院発表会
29日(木)～8月11日(水)　定期試験（第4学年）

受験生の皆さんへ
見せてほしい　君の個性　君の情熱
一日体験入学
① 7月11日(日)　② 7月18日(日)
③ 8月 1日(日)　④ 8月22日(日)
※7・8月開催分のみ掲載
開催時間 9：30～15：00（受付9：15～）
●キャンパスツアー　●ランチ体験
●模擬実習　●入試説明　●進学相談　など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学　入試広報室
www.mdu.ac.jp

Matsumoto Dental University SNS Information
LINE
twitter
Instagram
facebook